

- ・必要な処方薬を指導医の指導のもとに処方する。
- ・次回の外来受診日を決め、それまでの注意事項などについて指導する。

7) 単独での外来診療

- ・指導医が問診票などの情報に基づいて、研修医に診療能力に応じて適切な患者を選択する。
- ・研修医は上記 5)、6) の診療過程を単独で行うこととするが、必要に応じて指導医にすぐに相談できる体制をとる。
- ・原則として、研修医は診察した全ての患者について指導医に報告（プレゼンテーション）し、指導医は報告に基づき指導する。

※一般外来研修では、研修医にどのレベルまでの診療を許容するのかについては、指導医が一人ひとりの研修医の能力を見極めて個別に判断する必要がある。

※どのような能力レベルの研修医であっても、診療終了後には必ず共に振り返りを行い、指導内容を診療録に記載する。

8) 研修スケジュールは、研修先に準じる。

3. 評価

1) 研修医は、ローテーション終了時に一般外来研修の実施記録を研修医手帳に記録する。

第 4 章 診療科別研修プログラム 選択研修

I. 形成外科 管理指導医：浅田 裕司

1. 研修目標

形成外科は、主として身体表面の機能のみならず形態を維持・改善することを目的に、外科的手技を用いて治療することを専門とする。体表面の先天奇形、外傷、腫瘍切除後の再建などを幅広く行う。日本形成外科学会の認定施設であり、専門医となるための基本手技から高度な手術まで、形成外科のほぼ全体に渡る知識や手技の習得を行うことができる。傷を綺麗に治すための基本となる創傷治癒は、形成外科の基礎となる学問であるが、これはあらゆる外科学に共通するものであり、外科系各科の診療にも必要な知識と考えられる。

2. 研修方略

研修内容

2 年次の選択診療科として研修を行う。最初に、創傷の扱い方と形成外科的縫合法の習得を目指す。これらの上の段階として、形成外科専門医になるために必要な様々な皮弁などの手術を行っていく。研修スケジュールは下記のとおりである。

	朝	午前	午後	夕方
月		病棟処置／外来陪席	病棟処置	
火		病棟処置／外来陪席	手術	
水		手術	手術	
木		手術／病棟処置	病棟処置／褥瘡回診	
金		病棟処置／外来陪席	手術	

3. 行動目標

(1) 経験目標

1) 基本的な身体診察法

①創傷の状態を正しく把握する。

②創傷治癒遅延因子を理解する。

2) 基本的な臨床検査

①単純 X 線

②CT、MRI などの画像診断

③動静脈の血流検査

3) 基本的手技、基本的治療法

①洗浄を基本とした創傷処置

②創傷の状態に応じた外用剤の選択と使用

③創傷の状態に応じた被覆材の選択と使用

④形成外科的縫合法

⑤簡単な外傷の創処置

4) 医療記録

特記すべきことなし。

(2) 経験すべき疾患・治療

5. 評価

1) 研修医は、ローテート終了時に EPOC を用いて自己評価を行う。

2) ローテート終了時に、指導医及び看護師長（または相当職の看護師）が、EPOC を用いて「研修医評価票 I、II、III」により研修医を評価する。